埋文ふじのみや

MAIBUN Vol.13

写真は、大宮城跡から出土した「雁又鏃（かりまたぞく）」。江戸時代の美意識の高い女性がかんざしとして髪に挿して…いたのではなく、これはれっきとした武器。武士が矢の先端に付けて使用していたものなのです。今回ご紹介する大宮城跡からは、このような金属製品のほか貿易陶磁器、花瓶や香炉などの高級品も出土しました。実物を見たい方はぜひ、埋蔵文化財センターへ！

2021.夏
富士宮市埋蔵文化財センター

平安・鎌倉・室町
安土桃山・江戸

Oomiyajouato

大宮城跡

おおみやじょうあと

富士宮市元城町

調査年／
1984 年・1995 年
1997 年・1998 年
2012 年

富士氏の本拠地

大宮城跡は、浅間大社と神田川を挟んだ東側、大宮小学校を中心とした一帯に位置する遺跡です。城と言っても、石垣や天守閣を持つものではなく、いくつもの建物が建っている屋敷で、大きな堀や土を盛り上げた柵である土塁によって防御力を備えていました。浅間大社の祭主を務めた富士大宮司家の館跡と考えられています。戦国時代の終わり頃に浅間大社とともに焼き打ちにあい、その後、館は浅間大社の西側、現在文化会館や図書館が建っている場所に移転したと伝わっています。文化会館には、明治時代に富士氏が東京へ移転するまで館として使われたことを伝える芙蓉館の石碑が建てられています。大宮城は、富士氏が元々居た場所ということで元富士大宮司館とも呼ばれています。

発掘調査はこれまでに館の南東部と推定される地点を中心として5回行われており、掘立柱建物跡、礎石建物跡、堀跡、溝跡、土塁基底部、井戸跡などが見つかっています。これらは全て同時に存在していたわけではなく、館の構造は4つの時期に分類されます。

堀2　発掘状況

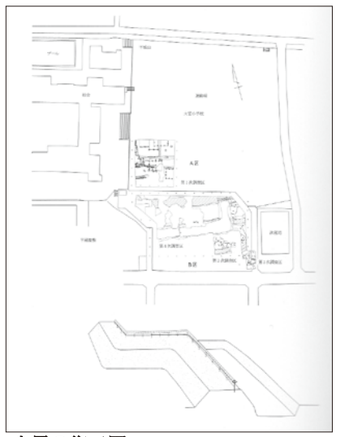
まず、12 世紀前半～ 13 世紀前半（Ⅰ期）には、4間 ×3間の掘立柱建物を小規模な溝が囲む構造でした。13 世紀後半～ 16 世紀前半（Ⅱ期）には、溝が巡る外側を土塁と最大幅6m、深さ 1.3mの堀1が囲んでいました。16 世紀中頃（Ⅲ期）には、内部に溝が巡り、その外側を土塁と堀1、堀3、やや規模が小さい堀4と3本の堀が囲んだ形となりました。16 世紀後半（Ⅳ期）から末にかけての時期は、土間を付属した礎石建物と区画溝を、土塁と最大幅9m、深さ3mの大型の堀2とさらに外側のやや小規模の堀5が巡っていました。堀2は途中で折れて背後に控える土塁から突き出た形となっており、防御性に非常に優れた構造となっていました。

報告書／『元富士大宮司館跡』2000 年
『元富士大宮司館跡Ⅱ』2013 年

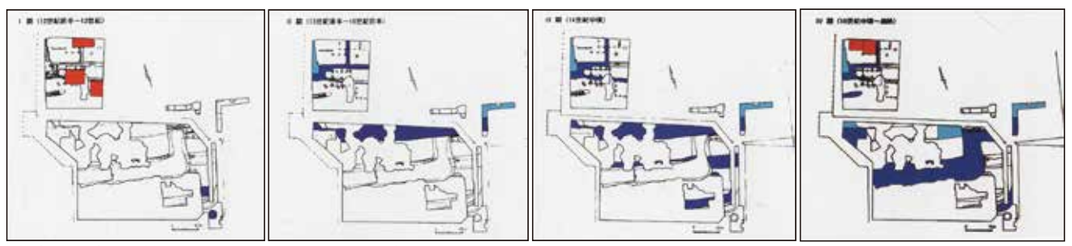
堀跡

周辺地図

遺跡（上空から）



土塁の復元図



大宮城の変遷（左からⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期）

出土土器・陶磁器

青銅製品

釘

石臼と茶臼

遺物は土師器、国産陶器、貿易陶磁器、金属製品、木製品など多種多様なものが出土しました。土師器は碗や皿が多くあり、基本的にはロクロ成形ですが、手づくね成形のものや柱状高台土師器、足高高台土師器、あるいはコースター型と言われる扁平な皿型のものなど様々なバリエーションがあります。

国産の焼き物は、瀬戸美濃製品や常滑製品が多くあり、愛知県東部の渥美半島を中心として焼かれた渥美製品も若干見られます。

貿易陶磁器は、青磁や白磁、青花の碗や皿が中心ですが、宴会や部屋の装飾に使った盤や壷、花瓶、香炉などの高級品が出土しており、浅間大社遺跡よりも豊かなことが分かります。

金属製品には銭などの他に、刀、矢の先端につけた雁又鏃（かりまたぞく）（写真は表紙）といった武士が使うようなものがあり、木製品には塀の部材などもあり、武士の館としての姿が想像されます。

塀の部材

出土した遺物

2020 年度に発掘したのは…

大鹿窪遺跡

おおしかくぼいせき

こんな発掘してました JUST DUG!!①

最新の発掘情報をお届けする新連載。堀りたてほやほや＆現在発掘中の現場を写真と共に紹介していきます。臨場感を味わってくださいね。

どんな遺跡？

富士宮市大鹿窪にある、縄文時代草創期～早期（約 13,000 年前）の集落遺跡。竪穴住居の痕跡や、土器・石器が多数発見されました。全国的にも珍しいものであり、縄文時代初期の定住開始段階における集落構造を知る上でとても貴重な遺跡であるとして、平成 20 年3月に国史跡に指定されました。

遺跡空撮（2020 年 10 月）

歴史に親しめる公園として整備します！

遺跡の重要性を後世に伝えて、将来にわたり遺跡を保護し活用していくために、富士宮市では遺跡の整備を計画中です。「日常的な公園利用の中で縄文文化を体験・学習できる場」として整備し、史跡大鹿窪遺跡の価値を正しく理解してもらうことが狙いです。

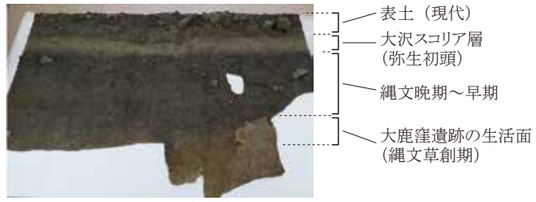
完成予想図

発掘時の土層の様子が見られます

発掘調査が終わると、遺跡は保護のため埋め戻され、目にすることができなくなります。そのため、遺跡の埋没状況がわかるよう「土層はぎ取り」をおこないます。

「土層はぎ取り」とは、特殊な接着剤を用いて壁面の土層表面を台紙に貼り付けて剥がす作業。はぎ取った「土層標本」は博物館などに展示して、訪れる人たちに見てもらう予定です。

はぎ取り作業風景



大鹿窪遺跡の土層標本

次号の案内

富士宮市内で見つかった遺跡

中世の遺跡 2

次号では、私たちが毎日眺めている富士山にゆかりの深〜い山宮浅間神社と村山浅間神社が登場。共に世界遺産の構成資産に数えられる由緒正しき神社です。その歴史と、遺跡から出土した遺物の数々をご紹介。この地に暮らした人々と富士山との切っても切れない強いきずなも明らかになります。

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、様々なイベントの予定が立たないため「富士宮市の見どころ案内」をお休みします。

富士宮市埋蔵文化財センター

ご利用案内

所在地　〒419-0315
静岡県富士宮市長貫 747-1

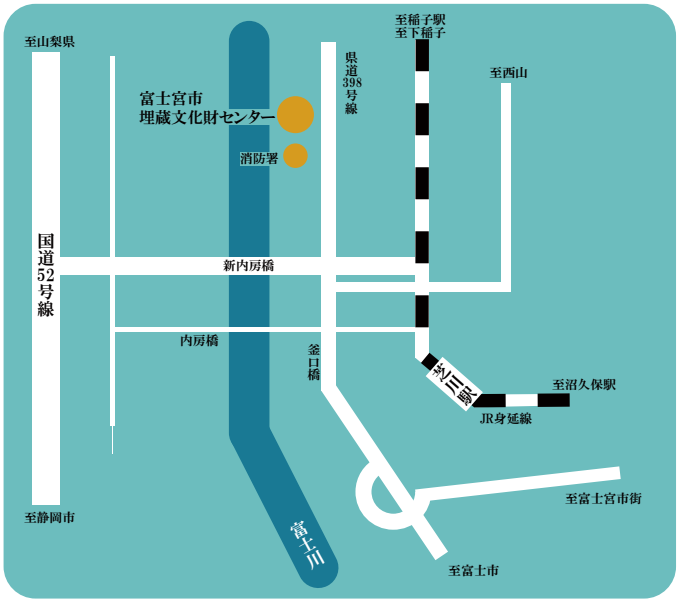
電話　0544-65-5151
FAX　0544-65-2933
E-mail　maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp

展示室開館日　平日
* 祝日及び年末年始（12 月 28 日〜 1 月 3 日）は休館

開館時間　9:00 〜 17:00（入館は 16:30 まで）
* 埋蔵文化財センターの業務時間は 8:30 〜 17:15

見学料　無料
駐車場　あり（無料）

交通案内



【バックナンバーのご紹介】

これまでに発行された『埋文ふじのみや』Vol.1〜 Vol.12 は、富士宮市のホームページでご覧になれます。合わせて、最新号も公開しています。

富士宮市埋蔵文化財センターだより
埋文ふじのみや Vol.13
令和３年６月
編集／発行　富士宮市埋蔵文化財センター